

Lyric

Colors

リリック カラーズ

vol.19

2026
7.25発行
TAKE
FREE

あなたの毎日に
芸術文化のいろどりを—。



特集 音楽劇

RATS

猫も食わないから騒ぎ

特集

東京フィルハーモニー交響楽団

長岡特別演奏会

響きの魔術師、ラヴェルの世界へ

平日お昼の室内楽コンサート

Vol.2 金管五重奏 ～華麗なるブラスの響き～

スペシャルインタビュー

小山裕幾 長岡市出身 フルート奏者

注目公演

第24回 澤クワルテットコンサート～ラテンの情熱～

文学座公演「欲望という名の電車」



ただいま稽古中!

熱気あふれる稽古場から
市民キャストの熱いメッ
セージが届きました



樋口 桜
私は、演劇もミュージカルも経験したことがありません。父と母が演劇が好きで、リリックに観に来たことがたくさんあるので、前から興味はありました。今回、父にオーディションを受けるから一緒に受けようと言われて思い切って挑戦してみました。結果、2人で合格することができました。稽古は新しい友達もでき、おとなも子どもも関係なく、みんな真剣にやっています。初めてのことで緊張もしていますが、この「RATS」の仲間たちと最高の舞台をつくりたいと思っています。ぜひたくさんの人たちに観てもらいたいです。

長岡リリックホール開館30周年記念

音楽劇
RATS
猫も食わないから騒ぎ

【あらすじ】
ドブネズミたちはジメジメした地下で空腹に耐えながらトンネル工事。一方、ハツカネズミたちは人に飼われ平和に暮らしている。だが、ハツカネズミのチュリエットは、変化のない暮らしにうんざりしていた。「味気ない食事はイヤ! 親の決めた結婚もイヤ! この家もイヤ!」ある日、憧れの外の世界に飛び出したチュリエット。ドブネズミのラト兄と出会い、惹かれ合う。しかし、当然周囲は猛反対。家族、そして仲間たちが入り混じっての大騒ぎ——そんななか豪雨が町を襲う。川の水位が急上昇し、ドブネズミたちの住処が水没の危機に…ドブネズミ一族の命運は! そして2匹の恋の行方は?!

8/22(土) 開場 14:30 開演 15:00
23(日) 開場 12:30 開演 13:00
長岡リリックホール・シアター
全席自由 一般 3,000円 U-25 1,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認できるものをお持ちください。

久保田 慎

演出の西川さんとの出会いは20年前のワークショップで、「薔薇」という作品でした。その後、開館10周年記念「おい幾多郎」に出演させていただきました。そして今回、開館30年の節目に再びリリックの舞台に立てることを大変光栄に感じております。また、今回コンビを組む相手の樋口さんとの出会いもリリックの演劇事業でした。当時大学生だった私も、今は3人の父となりました。私を成長させてくれたリリックで、この作品が描く「壁を越えた仲間たちの絆」を表現できることが楽しみでなりません。日本最高峰の劇団・文学座のプロの皆さんと、私たち市民キャストが放つ情熱的なエネルギーを、ぜひ劇場で浴びてください!



成田 灯真

友達が出演していたミュージカルを観て、舞台に立つことに興味を持ちました。僕も歌や映画が好きなのでオーディションに挑戦し、合格したときはとてもうれしかったです。そして、人と関わるのが大好きな僕にとって、一緒に参加している色々な人と協力してつくり上げていく「RATS」の稽古は毎回楽しいです。みなさんの心に残るような作品を作り上げるために、一生懸命頑張るので、たくさんの人に観てほしいです。リリックホールで待ってます!



公演情報は
コチラ→

文学座と市民。

つくる人、演じる人、観る人。

ひとつの感動でつながる。

音楽劇

RATS
猫も食わないから騒ぎ

プロデューサー・演出 西川信廣
脚本 小川末玲 音楽 上田亨
出演 清水明彦 高橋ひろし 頼経明子
越塚学 成田次郎 市川千紘
市民キャストのみなさま

2026年は、リリックホール開館30周年、文学座との地域拠点事業が20年目となる節目の年です。これを記念し、プロと市民が一丸となり、新作音楽劇「RATS」を制作・上演します。4月にオーディションを実施し、約50名の応募のなかから24名の市民キャストが選ばれました。現在、小学生から60代まで幅広い年齢層の市民キャストとプロの俳優が懸命に稽古に励んでいます。今回は、音楽劇「RATS」のプロデューサー・演出 西川信廣さんに作品について語っていただきました。

長岡のみなさんと培った深い繋がりを
更に新たな繋がりがりづくりに

ありがたいことに、私がリリックホールの周年記念事業の演出に携わるのは3回目となります。ただ、開館10周年記念の「おい幾多郎」と20周年記念の「オペラてかがみ」は、台本や公演実績があり、その上での長岡公演でした。今回は、大筋はありますが、全くのゼロからの出発です。言わば、土台があつてその上に家を建てるのと、穴を掘って土台から作り、家を作るのとの違いです。まかり間違えば、家が傾いたり、崩壊する危険な状態です。しかし、逆にその不安を乗り越えれば、素晴らしい家が建つ喜びが待っています。これまでの20年間で培った長岡の皆さんとの深い繋がりを、この新作づくりに活かし、力を合わせ素晴らしい「家」を建て、新たな繋がりがりづくりのスタートにしたいと思います。

お互いの違いを尊重し
ともに生きる素晴らしさを描く

「RATS」は、人間に飼われているハツカネズミのお嬢さんと汚い地下で暮らすドブネズミの青年の恋物語なのですが、地球環境の変化や、フードロス、共生社会の在り方など今の日本社会が直面している問題も含まれています。ただ、小難しい重苦しい物語ではありません。歌あり、踊りありのエンターテインメントであり、お互いの立場や宗教、習慣の違いを越えて、愛は2人を結びつけるラブストーリーです。分断と対立が広がる現代の世の中で、お互いがお互いを尊重して、ともに生きて行く素晴らしさを感じさせてくれる作品を、長岡の皆さんとつくり上げます。



プロデューサー・演出
西川 信廣 (文学座)

文学座俳優の高橋ひろしさん、成田次郎さんより、当公演へのメッセージをいただきました。



高橋 ひろし

今回「RATS」に参加することになりまして……いやいやホントにワクワク、ウズウズしております。これまで、長岡には、劇団公演や、朗読会、そして、様々なワークショップで訪れて参りました。なかでも2023年の「長岡物語」では演出として携わり、半年以上にわたる準備、稽古を経て長岡の皆様とのチームで作品を作り上げるという得難い経験をさせていただきました。そして今回は役者として、約3週間長岡に滞在しての稽古から本番。これがワクワクせずにおられましょうか! アツい長岡の夏に、よりアツい気持ちを持って、一陣の爽やかな風を送ります。多くの方に楽しんでいただけるよう「RATS」を長岡の皆様と一緒に作り上げます! ぜひご来場ください!!



成田 次郎

去年、ワークショップで初めて長岡を訪れました。駅を降りて「醤油赤飯」なる暖簾を見つけ即購入。後々聞くと長岡名物だったそう。赤飯が大好きな僕が長岡を好きになるには充分すぎる出来事でした。ワークショップでは、僕が圧倒されてしまう程エネルギーギッシュな長岡の皆様と囲まれ、芝居に対する熱意、その姿勢を見て我が身を振り返り、とんでもない贈り物を頂いた。と帰りの新幹線で思い返していました。そんな長岡で、長岡の皆様とお芝居できると思うと、もうワクワクが止まりません! いただいた贈り物の恩返しに帰ってまいりました。この夏、特別な作品を長岡の皆様にお届けします! お楽しみに!

東京フィルハーモニー交響楽団 平日お昼の室内楽コンサート

Vol.2 金管五重奏 ～華麗なるブラスの響き～

東京フィルメンバーによる特別編成のアンサンブルコンサート第2弾!

クラシックの名曲から、華やかで楽しい作品、
金管楽器の魅力を存分に味わえるオリジナル
作品まで、幅広く親しみやすいプログラムです。
トークを交えながら、楽曲の背景や聴きどころも
ご紹介します。

Program

- ヘンデル :組曲「水上の音楽」より
- ロウ :映画「マイ・フェア・レディ」より「踊り明かそう」
- エヴァルド:金管五重奏曲 第1番 より 第2楽章・第3楽章
- 山田耕筰:赤とんぼ
- パーンスタイン:「ウェスト・サイド・ストーリー」

※曲目・曲順は変更する場合があります



トランペット
野田 亮



トランペット
箕輪 綾子



ホルン
木村 俊介



トロンボーン
中西 和泉



テューバ
萩野 晋

9/8火 開場13:00
開演13:30

リリックホール・コンサートホール

入場料 1,000円

※未就学児入場不可
※事前の申し込み・チケット購入は不要です。当日会場で入場料をお支払いください。

平日お昼の室内楽コンサートについて

スキマ時間にお手頃価格でリフレッシュ♪

トーク付きの1時間程度のミニコンサートです。会場に直接お越しいただき、
入場口で現金にて千円をお支払いいただくスタイルです。ご予約、チケット
購入の手間がありません。

クラシックがはじめての方も気軽に!

演奏者による曲目解説もあるので知らない曲でも楽しめます。プログラムも
クラシックから映画音楽まで幅広いジャンルを味わうことができます。

Report

5月に開催した、弦楽四重奏による「vol.1 新
緑のストリング・カルテット」。通常のコンサートに
はない、コンサートマスターによる軽妙なトークや
演奏曲のリクエストコーナーなどで会場はリラッ
クスしたあたたかな雰囲気に包まれました。



お客様の声

平日の昼間に気軽にクラシッ
クが聴けてとてもうれしいで
す。たった1,000円で心の栄
養をたっぷりもら
えました。
(40代)



YouTubeでは得られ
ない、生演奏の素晴ら
しさに感動しました。
(60代)



前は度々クラシックコンサートに訪れて
いましたが、子どもが産まれ、すっかり足
が遠のいていました。久しぶりに1人で
贅沢な時間を過ごすことが
できとても満足できました。
(40代)



コンサートマスターのわかりや
すい曲目解説と心地よい音色
に癒されました。(50代)



今後のスケジュール

Vol.3 11/25 (水)
木管アンサンブル
Vol.4 R9.2/9 (火)
室内楽アンサンブル

東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会

響きの魔術師、
ラヴェルの世界へ

今年の東京フィルによる特別演奏会は、国際的に活躍する人気指揮者・広上淳一との最強タッグ
で、「管弦楽の魔術師」と称されるモリス・ラヴェルの3つの代表曲をお届けします。マエストロ広上
さんとソリスト鈴木さんより、今回の曲目の魅力と長岡の皆さんに向けたメッセージをいただきました。

長岡初登場
浜松国際ピアノコンクール
日本人初優勝

広上淳一マエストロと東京フィルハーモ
ニー交響楽団の皆様とともに、ラヴェルのピ
アノ協奏曲を演奏できることを楽しみにして
おります。

この作品についてラヴェルは「モーツァル
トとサン＝サーンスの精神」で作曲したと
語っています。古典的な要素を持ちなが
らも、第1楽章と第3楽章には活気あふ
れるリズムやジャズの効果が感じられ、
その間に挟まれた第2楽章はこの上なく
美しい音楽です。初めてお聴きになる方
にも楽しんでいただける作品だと思います!

10月の長岡は新米の季節でもありま
すので、美味しいお米をいただける
ことも今から楽しみにしています。会
場でお待ちしております!

ピアノ 鈴木愛美



『ダフニスとクロエ』は作曲家ラヴェルの代表作と言えます。全曲を演奏
すると約1時間ほどかかるバレエ音楽ですが、今回、第1組曲、第2組曲を
続けて聴くことで、作品の全体像とともに楽しんでいただけるはずです。ラ
ヴェルの管弦楽の凄さはこの『ダフニスとクロエ』に代表されており、圧倒
的な彼の天才性を味わうことができます。「マ・メール・ロワ」も色彩豊かな
ラヴェルならではのオーケストレーションです。ゆったりとし
た、本当に情緒ある作品を聴くことができます。

そして、ピアノ協奏曲のソリスト鈴木愛美さんは浜松
国際ピアノコンクール日本人初の優勝者で、私の教え子
でもあります。東京音楽大学に在学時からよく存じ上げ
ている逸材で、ますます活躍の場を広げている期待の
新人です。ぜひ応援をしてあげていただきたいと思
います。

三曲揃い踏み、オール・ラヴェルシリーズで、長岡
の皆さんにこの東京フィルサウンドを十分に楽しん
でもらえることと思います。

指揮 広上淳一



プログラム ちょこっとメモ

ラヴェルが生み出した、幻想的で洗練された、
壮大な音響絵巻を堪能しましょう!



狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

押し寄せ、熱
狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

狂的なフ
イ
ナ
レ
を
む
か
え
ま
す。

10/11日 長岡市立劇場・大ホール
開場13:15 開演14:00
〈チケット好評発売中〉全席指定 S席 7,000円 A席 5,000円



チケットはコチラ

【オール・ラヴェル・プログラム】
組曲「マ・メール・ロワ」
ピアノ協奏曲 長調 (ピアノ 鈴木愛美)
「ダフニスとクロエ」第1組曲、第2組曲

至高のタクトで
世界を魅了するマエストロ

©Masaaki Tomitori

©上野隆文

ちに出会えたりすると、とても嬉しい気持ちになります。また、今年からは試験的に海外講師を迎え入れます。学生たちにとって最高のクオリティに出会うことは、一生の記憶に残る体験になると思っています。いずれは、例年1回だった開催を夏の年2回に広げ、更にクラリネットやオーボエなどの楽器のWSもできたら良いなと思っています。将来的には私のフルートキャンプのようにキャンプ形式で開催できたらとても楽しいなと考えています。

一方で、日本全体のフルートレベルが落ちていることに危機感を抱き、長岡で何かできないかと考え、フルートキャンプを始めました。ハイレベルな受講生たちが全国から集まり、切磋琢磨する姿はとても印象的です。特に最終日の成果披露演奏会では、毎年胸が熱くなり、大きなやりがいを感じています。今後は、海外講師をより充実させていきたいです。現在は講師2人ですが、できれば3人以上に増やしたいです。また、成果披露演奏会は1回だけですが、日本を回る演奏会ツアーのような企画ができたら良いなと思っています。欲を言うならば冬も開催し、毎年招聘講師とリリックホールでコンサートができたなら大変有難いです。

これから、こうした活動を通じて、地元貢献できることを更に広げていきたいです。



小山さんにこんなことも教えてもらいました♪

意外に知らない

フルートという楽器

フルートは、息を吹き込むだけで豊かな表情を生み出す、歌うような楽器です。分類上は「木管楽器」なのに金属製なのは、19世紀のドイツ人テオバルト・ベームが古代の木製横笛を進化させたからです。彼は金属管と革新的なキーシステムを完成させ、音の美しさと演奏性を劇的に高めました。以降、銀や金に輝く現代フルートが生まれました。最大の魅力は、奏者の息そのものが直接音になること。息の強弱や角度までが感情を映し、ささやくようなピアノシムから輝くフォルテまで無限の色彩を描ける、まさに「歌う楽器」です。

意外な フルートを始めたきっかけ

フルートを始めたきっかけは、小学生の頃、喘息持ちだったため、医師から「フルートが呼吸に良い」と勧められたからです。当時はただ息を吹くだけの「練習」だったように思います。…なので、フルートは「やらされているもの」でした。リリックで中学生の頃初舞台を経験しましたが、人前で演奏するのが本当に嫌で、舞台袖でガチガチに緊張していました。今は全く緊張しません(笑)。歳を重ね、演奏することが息をし、歩いたりと同じように感じられるようになり、気持ちが楽になりました。



7/31金 | 小山裕幾フルートリサイタル アンネ=カテリーネ・ハインツマン氏を迎えて

リリックホール・コンサートホール
開場 18:30 開演 19:00

全席自由 一般 3,000円 学生 2,000円
※未就学児入場不可

出演 フルード 小山裕幾
アンネ=カテリーネ・ハインツマン
ピアノ 内門卓也

プログラム

ドビュッシー:ソナタ短調
(ヴァイオリンを原曲とする)

ゴッパール:ファンタジー

ほか



主催・お問い合わせ/小山裕幾フルートリサイタル実行委員会 ☎080-1009-7258(小山)

8/11火祝 | 小山裕幾フルートキャンプ成果披露演奏会

入場無料 リリックホール・コンサートホール
開場 14:30 開演 15:00

※直接会場にお越しください。※未就学児入場不可

小山裕幾が講師を務め、世界に羽ばたくフルーティストを育成するため、8月に短期合宿講座を開催します。オーディションで選抜された受講生が指導を受け、その成果を発表します。

特別講師/アンネ=カテリーネ・ハインツマン(Folkwang 芸術大学教授)

主催/小山裕幾フルートキャンプ実行委員会 (公財)長岡市芸術文化振興財団



前回の様子

Special interview 小山裕幾

(長岡市出身)

フルート界の次世代を導く
北欧が認めた若き巨匠

世界屈指の名門フィンランド放送交響楽団の首席フルート奏者を務める、国際的に活躍している小山裕幾さん。フィンランドのシベリウス・アカデミー(芸術大学)の講師をはじめ、近年では長岡でも後進育成の活動に力を注いでいます。今回は、小山さんのフィンランドの生活や故郷長岡への取り組みについてお話を伺いました。

PROFILE

6歳でフルートを始め、10歳にはU字管でイペールのコンチェルトを披露し、幼少期からフルート界の注目を集める。中学生時代から演奏活動をはじめ、当財団の主催事業の公演にも数多く出演。長岡高校卒業後、慶應義塾大学理工学部を卒業後、スイスのバーゼル音楽院で学び、数々の国際コンクールで優勝を果たした異色の経歴の持ち主。現在、2児の育児に奮闘しながらも若手奏者の育成にも励んでいる。

フィンランドでの仕事と生活について
現在、フィンランドを拠点に演奏者・指導者として活動しています。フィンランド放送交響楽団の首席フルート奏者として、週に1、2回のコンサートに出演しています。毎回ライブ放送されるため、常に緊張感を持って演奏に臨んでいます。最近では室内合唱団との録音の仕事がとても有意義でした。人間の声は誰もが持つ偉大な楽器であることを改めて再認識し、音楽の可能性を広げてくれました。また、シベリウス・アカデミーでフルート科の講師を務めています。様々な国からの生徒たち一人ひとりに合った練習方法を考え、よく観察すること、そして自分が学んできた感覚的なことをわかりやすく言語化するよう心がけ、日々指導に励んでいます。

フィンランドでの生活が長くなりましたが、やはり故郷・長岡(日本)が勝っていると感じるのは、まず食べ物です。特に魚の種類の豊富さと新鮮さは格別で、毎日食べても飽きません。経済がしっかり回っている実感も、日本ならではの安心感です。一方、フィンランドで「すごい!」と思うのは、女性の社会進出が進んでいること。

オーケストラのマネジメントはほとんど女性です。子育て環境も抜群で、職場が特殊とはいえ休暇が2ヶ月半もあり、毎日14時半に仕事が終わるので子ども



もと過ごす時間がたつぷり取れています。仕事と子育てのバランスを4・6くらいの割合にし、母や祖母が幼少期に私にくれた温かい愛情を、自分の子どもたちと同じように注いでいます。そして、子どもが生まれ、一番変わったのは練習時間がほとんどなくなったこと。保育園に子どもを送り届けてリハ・サル開始の10分前に会場入りしたり、コンサート当日も本番30分前に到着し、音出しもほぼせず演奏する日々が続いていますが、すっかり慣れました(笑)。今は子どもたちの日々の成長を見守る時間が、何よりの喜びです。

この様な日々のなかで、日本もフィンランドも、共通して人々の温かさと親切さが本当に素晴らしいと感じています。どちらの国でも、良い人との出会いが多いことが私にとって宝物となっています。

長岡での後進育成活動について
中学、高校生向けにワークショップを始め、たきつけは、吹奏楽部での問題点に気づいたからです。長岡では専門の先生に習う機会が少なく、基礎をしっかりと学ぶ時間がフルートのメカニズムを理解する時間が不足していると感じました。そこで、私の指導が生徒の上達の一助となり、それが故郷への貢献に繋がれば...という想いで取り組み始めました。実際に指導しているなかで、勘の良い生徒た



9/12^土

リリックホール コンサートホール
開場／13:30
開演／14:00

デビュー35周年記念

第24回 澤クワルテットコンサート ～ラテンの情熱～

全席指定3,000円 [U-25]1,000円 ※未就学児入場不可

チケット好評発売中

ラテンの情熱が息づく、弦楽とピアノが誘う 時代を超えた巨匠たちの名曲 ——

2026年はリリック開館30周年、そして澤クワルテットデビュー35周年にもあたります。今回は「ラテンの情熱」と題し、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンといったウィーン古典派の巨匠たちによる王道レパートリーとは少々異なるラテン系の名曲にスポットをあてたいと思います。レスピーギは20世紀初頭に活躍したイタリアの作曲家で、中世やバロック時代の音楽を題材にした「リュートによる古風な舞曲とアリア」の第3組曲は、とても親しみやすい曲調で映画音楽にも使われています。フォーレのピアノ四重奏曲ではピアニストの蓼沼恵美子とともに、フランス近代のピアノを含む室内楽としては最も人気の高い名曲を。フランス印象派の巨匠で、スペイン系のDNAも持つラヴェルの弦楽四重奏曲でラテンの情熱とフランスの軽妙洒脱をお楽しみいただければ幸いです。【澤 和樹】



〔左から〕澤和樹(第1ヴァイオリン)、市坪俊彦(ヴァイオリン)
大関博明(第2ヴァイオリン)、林俊昭(チェロ)

プログラム

- ・レスピーギ:リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲
- ・フォーレ:ピアノ四重奏曲 No.1 ハ短調 Op.15
- ・ラヴェル:弦楽四重奏曲 へ長調

※曲目は変更する場合があります。



蓼沼恵美子(ピアノ)

10/12^{月祝}

リリックホール シアター
開場 13:30
開演 14:00

文学座公演「欲望という名の電車」

全席指定4,000円 [U-25]1,500円 ※未就学児入場不可

チケット好評発売中

作 テネシー・ウィリアムズ / 訳 小田島恒志 / 演出 高橋正徳

出演 小林勝也 中川雅子 大滝 寛 山本郁子 沢田冬樹 鍛冶直人 渋谷はるか 松本祐華 稲岡良純 ほか

70年以上愛され続けている 文学座の伝説的演目を上演！

今年の文学座公演は、アメリカ演劇の不朽の名作『欲望という名の電車』です。1947年にブロードウェイで初演以来、ヴィヴィアン・リーを主演に映画化されるなど、テネシー・ウィリアムズの最高傑作として今なお親しまれています。日本では1953年に文学座が初演し、主人公 ブランチを杉村春子が務めました。本公演では新潟県出身の山本郁子がブランチに挑みます。濃密で繊細な人間ドラマをぜひご体感ください！

あ
ら
す
じ

かつてはアメリカ南部の上流階級の娘であったブランチ。零落した彼女は、妹夫婦が暮らすニューオーリンズの安アパートに身を寄せる。豪華絢爛な暮らしをしてきたブランチにとって、多民族が交差し合うニューオーリンズでの生活は衝撃的であった。自身の過去に執着し続けるブランチと対照的に現実を受け入れ、遅く生きる義弟スタンリー。正反対の二人が出会ったとき、嘘とブラインドにまみれた激しい心理戦の幕が上がる――。



新潟出身

主演 山本郁子さん

新潟には毎月帰省しており、その都度、ふるりの景色に心癒されています。そんなわが故郷で公演できますことは何よりの励みです。『欲望という名の電車』はテネシー・ウィリアムズの名作、人間の俗性や穢れ、また究極の聖性を描いた作品で、私はブランチを通して自分の心を見つめる機会となりました。この作品が世界中で上演され続けているのは、誰にでもどこかにブランチやステラ、スタンリー、ミッチ的な精神性が秘められているからだと感じます。皆様の心に、この作品がどの様に届きますか…愉しんで頂けたら嬉しく思います。



撮影:宮川舞子

〔表紙〕「音楽劇RATS」の市民キャストたちの熱い稽古風景。小学生から60代まで幅広い年齢層の出演者が心をひとつに励んでいます。プロのスタッフ・文学座俳優、そして市民が感動のステージをお届けします。

Lyric Colors vol.19
〈2026年7月25日発行〉

発行:(公財)長岡市芸術文化振興財団

〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6

TEL.0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>

長岡リリックホール
Nagaoka Lyric Hall